

地域農業の在り方等を踏まえた市町村支援計画等の概要

【地区の概要】

- ▶ 水稻・麦・大豆が主体の平地農業地域
- ▶ 土地利用型作物が盛んで土地利用率も高いが、高齢化による離農がすすみ、地区の大規模な担い手に農地が集中している状況

【支援内容・背景】

- ▶ 農地が集中する担い手には農地集積に伴う経営面積の増加に対応した機械及び施設の導入に対する支援策が必要。
- ▶ 助成対象者は地区内で大規模に土地利用型作物の経営を行っており、地区的中心的経営体。農家の高齢化がすすむ中で、今後もさらに農地が集まる見込みであり、地区の農地の主要な受け手である助成対象者に対して規模拡大のために必要な機械等を支援。

大分県



助成対象者「(有)中原農場」の経営の状況と事業内容

【経営の経緯】

- ▶ 平成18年 法人化(有限会社)
- ▶ 平成20年 経営改善計画の認定
- ▶ 平成30年 いちご(ベリーツ)の栽培を開始
- ▶ 令和元～6年 経営面積が急速に拡大(麦50ha→68ha)

《事業活用の背景》

- 拡大する農地の防除作業省力化のためにドローン導入を行いつつ、生産拡大に伴う乾燥調製施設を増設。また、高付加価値化のため、高品質な小麦(高タンパク小麦)生産のために必要な食味・収量センサーを導入。

【事業実施時の状況】
(R2年度)

- 売上高 131百万円
- 経営面積(麦) 50ha

《事業による整備内容》

- ドローン 1台
事業費 3,181千円
(国費 1,446千円)
- 乾燥機・調整機 5台
事業費 14,243千円
(国費 6,474千円)
- 食味・収量センサー 1式
事業費 1,512千円
(国費 687千円)

【現在の経営状況】
(R6年度)

- 売上高 165百万円 (126%)
- 経営面積(麦) 68ha (136%)

事業の効果

- 《対象者》 省力化機械等の導入により、増大した経営面積の適正管理が可能となり、売上高の増加と農産物の高付加価値化を実現。
- 《地区》 助成対象者の経営基盤の強化により、地区の農地の受け皿となる担い手の体制を確立。